

6. 研究活動と研究環境

目標

1. 専任教員の研究活動の振興と円滑化を促し、その研究成果発表のため紀要の発刊を行う。
2. 教員の研究活動のために必要な研究費の確保に努める。
3. 学会等、研究活動に必要な研修機会を確保するため就業規則に基づき適切な配慮を行う。
4. 本学の学術研究の信頼性と公正性を確保するため、研究倫理基準に基づき適正な審査を行う。

(1) 研究活動

「現状及び点検・評価」

- ① 本学専任教員の研究活動の振興と円滑化を促し、その研究成果発表のため毎年度「東京医療保健大学紀要」を発刊している。
- ② 平成17年11月に東京医療保健大学紀要規程及び東京医療保健大学紀要委員会規程を定め、紀要委員会（学長を委員長とし、専任教員7名、大学経営会議室長、事務局長、教務部長 計11名で構成）において紀要の編集方針及び発行について審議を行い、紀要投稿規程、査読要領その他紀要の編集と発行に必要な事項を定めている。
 - 投稿規程としては、投稿資格を本学専任教員（助手を含む）及び本学専任教員の共同研究者とし、その他の投稿は紀要委員会の承認を要すること、また、原稿の種類を「原著論文」「研究報告」「資料」「総説」「論説」及び「その他」とすること、他誌に既に発表・投稿されていないものに限ること、更に、同一著者による投稿は2編を限度とすることとした。
 - 投稿原稿は原則として和文及び英文とし、原稿はA4版横書で和文・英文それぞれに字数を決め、原稿の種類により、本文・文献・図表を含めた枚数を定めるとともに、オリジナル原稿も含め電子媒体とプリントアウトした原稿1部を提出することとした。
- ③ 投稿論文の募集は1月中旬に行い、投稿希望者から1月末までに投稿申請を受け付け、投稿原稿の締切りは3月下旬、その後、査読を経て、修正等を行い本稿の提出は5月下旬、発刊は9月としている。
 - 査読については、紀要委員会委員長が依頼した複数の査読者が、テーマの重要性・有用度、研究の新規性及び論理の構成など5つの視点により「論文査読意見書」の判定項目に従って査読を行い、紀要委員会委員長宛に提出する。
 - 提出された査読結果は紀要委員会から投稿者に通知され、その内容に従い、投稿者は原稿を修正する。

- ④ 紀要には、当該年度における投稿論文の外、本学専任教員による原著論文、総説、著書及び学会・研究会への参加状況等をまとめた教員業績一覧を掲載しており、専任教員の研究活動の振興に資するものとなっている。

表 45 紀要の掲載論文等について

○第1巻 第1号（平成18年9月発行）

	タイトル	著者
原著	転倒予防のための高齢者の足部異常改善による身体機能の向上に関する研究 Enhancement of Physical Functions for Falling Prevention through Care of Abnormal Feet and Nailson the Elderly	医療情報学科 講師 山下和彦 他7名
	ダチョウの卵で作ったプリンの品質 - 熱凝固性 - Qualities of the pudding prepared an Ostrich egg (Struthio camelus domesticus) - thermal coagulation -	医療栄養学科 教授 峯木真知子 医療栄養学科 助手 棚橋伸子
	インシデントの量的分析を補完する事例分析の有用性の検討 - 転倒転落事故を例にして - An Examination of Effectiveness of Qualitative Site Analysis to Complement A Quantitative Analysis of Fall Incidents	看護学科 教授 貝瀬友子 医療情報学科 助手 駒崎俊剛 看護学科 教授 坂本すが 他2名
	高速液体クロマトグラフ法による各種清涼飲料水中の L-アスコルビン酸含有量の検討 On the Quantity of L-Ascorbic acid Content in Soft Drinks by the Method of High Performance Liquid Chromatograph	医療栄養学科 准教授 五百藏良
	総合系医療情報システム導入における効果と課題 - 看護管理者のアンケート調査結果から - A Survey to Nursing Administrators Regarding the Total Healthcare Information System Implementation	看護学科 教授 坂本すが
総説	WHO を中心とした健康関連に関する QOL・スピリチュアリティ研究活動の概観 The Outline of QOL Spirituality Research Activities Relating to Health Based on WHO	看護学科 教授 石井八恵子
その他	平成17年度 東京医療保健大学教員業績一覧 平成17年度 公開講座実施状況 平成17年度 FD 講演会実施状況 大学設立の経緯	

○第2巻 第1号 (平成19年9月発行)

	タイトル	著者
原著	伝統食品フグ肝の復活 Revival of Traditional Food "Pufferfish Liver"	医療栄養学科 助手 大貫和恵 医療栄養学科 教授 野口玉雄
	市販飲料に対する学生の嗜好と摂取状況 —第2報— A Survey on the Preference and Intakes of Various Drinks on the Market among the University Students	医療栄養学科 助手 大貫和恵 医療栄養学科 助手 棚橋伸子 医療栄養学科 教授 峯木真知子 他1名
	真空調理によるりんごコンポート (未加熱) の調製 The Study of Preparation of Apple Compote by Unheated Vacuum Cooking	医療栄養学科 講師 西念幸江 医療栄養学科 助手 小澤啓子 医療栄養学科 助手 棚橋伸子 医療栄養学科 教授 峯木真知子
	女子学生を対象とした Quality of life および栄養素等摂取量に及ぼす短期間運動プログラムの効果 Effect of Short-Term Exercise Program on Quality of life and nutrient intake in Female College Students	医療栄養学科 教授 下田妙子
	女子大学生の栄養素等摂取量と欠食との関連 Association between energy and nutrient intake and skipping meals in female university students	医療栄養学科 助手 齋藤さな恵 医療栄養学科 教授 下田妙子
	月経前症候群の精神症状におよぼすエクオール産生能の影響 The influence of equol production causes to mental complaints in premenstrual syndrome.	医療栄養学科 講師 神田裕子 医療栄養学科 教授 豊田元
	SDA 法による高齢者と若年者の姿勢制御能の評価 Evaluation of postural control between aged and young using stabilogram-diffusion analysis	医療情報学科 准教授 山下和彦 他4名
総説	電子診療録の国際比較 International Comparative Research of Electronic Health Record	医療情報学科 講師 深澤弘美 医療情報学科 助手 岩上優美
研究報告	小児初期救急医療センター電話相談内容にみる家庭内事故の現状 The states of children's injury at home, those are shown on the pediatric telephone triage records at the primary emergency room.	看護学科 准教授 篠木絵理 看護学科 講師 富岡晶子 看護学科 助手 樋貝繁香 看護学科 教授 中久喜町子
	β -カロテン異性体の分析及び抽出方法の検討 Examination of the extracting method and analysis of the β -carotene isomer.	医療栄養学科 講師 神田裕子 医療栄養学科 教授 豊田元
資料	栄養士養成における呼吸代謝測定装置 V02000 を用いたエネルギー代謝測定の授業への適応 Adaptation in the lesson of energy metabolism measurement using a portable metabolic testing system V02000 in dietitian cultivation	医療栄養学科 講師 大館順子
その他	平成18年度 東京医療保健大学教員業績一覧	

○第3巻 第1号 (平成20年9月発刊)

	タイトル	著者
原著	真空調理によるりんごコンポート(加熱・凍結)の調製 Preparation of Apple Compote (Heating・Freezing) by Vacuum Cooking	医療栄養学科 講師 西念幸江 医療栄養学科 助手 小澤啓子 医療栄養学科 教授 峯木真知子
	下肢筋力から見た高転倒リスク高齢者のスクリーニング手法の開発 Development of screening method for the elderly with high fall risk viewpoint from lower limb muscular strength	医療情報学科 准教授 山下和彦 医療情報学科 助手 今泉一哉 医療情報学科 助手 岩上優美 看護学科 准教授 比江島欣慎 他4名
	開放性循環水槽において2006年および2007年から2年間養殖されたトラフグの肝臓の無毒再確認と栄養機能 Reconfirmation of non-toxicity of the liver and nutritional function of its lipid, of the pufferfish cultivated for 2 years in 2006 and 2007 respectively, in the open system of circular aquarium	医療栄養学科 助手 大貫和恵 医療栄養学科 教授 野口玉雄
	出芽酵母におけるアジドグリセロールにより誘導される突然変異へのレスベラトロールの影響 The effect of resveratrol on mutagenesis induced by azidoglycerol in <i>Saccharomyces cerevisiae</i> 7B	医療栄養学科 助手 清水雅富 医療栄養学科 教授 碓井之雄 他1名
総説	医療情報分野へ期待させる統計教育 Healthcare Informatics and Statistical Education	医療情報学科 講師 深澤弘美 看護学科 准教授 比江島欣慎
研究報告	東京地区の大学生の食意識と食の選択行動の実態 The Situation between the Awareness on Eating of Student in Tokyo Metropolitan Area and their Behavior of Food Choice	医療栄養学科 教授 峯木真知子 医療栄養学科 助手 生方恵梨子 他1名
その他	平成19年度 東京医療保健大学教員業績一覧	

○第4巻 第1号 (平成21年9月発刊)

	タイトル	著者
原著	ダチョウの卵で調製したスポンジケーキの特性 Preparation of Sponge Cake from Ostrich Eggs (<i>Struthio camelus domesticus</i>) - Comparison with White Leghorn Hen Eggs	医療栄養学科 教授 峯木真知子 医療栄養学科 助手 生方恵梨子
	3学科合同による協働実践演習の学習効果—嚥下障害を題材とした演習から— Learning effect of Collaborative of labor practice maneuver by three subject combination—From practice about the dysphagia—	看護学科 助手 野口寿子 医療情報学科 教授 津村宏 医療情報学科 講師 今泉一哉 医療栄養学科 講師 神田裕子 医療栄養学科 助手 大貫和恵 看護学科 教授 貝瀬友子
	フグ肝加工品の栄養成分と機能性成分 Nutrient and functional components of processed food of pufferfish livers	医療栄養学科 助手 大貫和恵 医療栄養学科 教授 野口玉雄
研究報告	基礎看護技術の演習方法の変化と看護大学生の技術習得過程での動機付けとの関連 —2年間の学生の演習後アンケート結果の比較—	看護学科 講師 伊藤綾子 看護学科 講師 駿河絵里子 看護学科 助手 藤井美和
	乳幼児の健康に対する親のニーズと健康教育 —認定こども園における実践から—	看護学科 講師 富岡晶子 看護学科 准教授 篠木絵理 看護学科 教授 中久喜町子 他1名

	タイトル	著者
	アレルギーを持つ子どもと保護者への支援 －認定こども園における実践から－	看護学科 助手 杉山友理 看護学科 講師 富岡晶子 看護学科 准教授 篠木絵理 看護学科 教授 中久喜町子
資料	教員免許状更新予備講習における学校の安全と危機管理	看護学科 助手 北島康子 看護学科 教授 中久喜町子
総説	医療従事者におけるコミュニケーション能力について －医療コーチングについて－	医療栄養学科 講師 神田裕子 医療栄養学科 教授 豊田元
その他	平成 20 年度 東京医療保健大学教員業績一覧	

「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 紀要に関する論文の募集時期、投稿方法、査読及び校正等発刊までの手順については学内に周知されてきたので、今後、より多くの教員が研究論文等を投稿できるよう各学科において研究環境の整備を図る。
- ② また、学会誌及び専門誌等への投稿を積極的に行うよう教員への意識啓発を行い、大学全体の研究活動の一層の推進を図る必要がある。

(2) 研究環境

「現状及び点検・評価」

- ① 教員の個人研究費については、研究実施に必要な経費、図書費、学会参加の出張費などに使用することとし、役職により年間予算を配分しており、平成 20 年度の配分予算総額は 34,400 千円である。この予算を有効に使用するため予算上限額を設定し、予算の翌年度繰延べを認めている。

(単位：千円)

	教 授	准 教 授	講 師	助 手
単年度予算額	650	550	450	150
予算上限額	1,000	850	700	250

- ② 各学科の特別研究費（学科別の年間予算 1,000 千円、予算総額 3,000 千円）は、研究分野に関するもの及び研修費（国内、海外）などに使用することとし、各学科内の予算配分は学科長の裁量により行い、予算の執行に当たっては学科から申請があった案件について理事長が決裁を行っている。なお、翌年度繰延べについては、前年度予算 1,000 千円を上限に繰り延べを認めている。
- ③ 研究活動の拠点となる教員研究室は各キャンパスにおいて個室または準個室（共同研究室をパーティションで区切っている）を設置しているが、世田谷キャンパスでは演習あるいは卒論指導ができるゼミ室の拡充を求める意見がある。
- ④ 教員の研究時間や研修機会を確保するために、本学では就業規則に基づき勤務時間等の特例として、裁量労働制を設けており、勤務時間については教員の裁量に委ねている。また、研究発表等の学会に参加する場合については、授業等に支障がない限り出張を許可しており、更に夏季及び冬季休業期間中については、研修届を提出することによって、研修参加ができることとしていることから、研究活動等遂行に係る配慮は十分行われている。
- ⑤ 競争的な研究環境創出のための措置としては、科学研究費補助金の申請を行っているが、平成 17 年度においては、本学として最初の科学研究費補助金の申請を行うため、平成 17 年 10 月に文部科学省の専門官を講師に招いて国土館大学と共催で平成 18 年度科学研究費補助金公募要領等説明会を実施した。その後、学内講師により毎年説明会等を実施している。なお、応募書類提出までの学内手続きは概ね次のとおりである。
- ・ 10 月初旬 公募要領等の説明会の実施
 - ・ 10 月中・下旬 応募書類受付期間
 - ・ 10 月下旬 応募書類の研究倫理審査委員会審査
 - ・ 11 月初旬 応募書類学内取りまとめ
 - ・ 11 月中旬 応募書類の提出

(表 46 文部科学省科学研究費補助金の申請及び採択状況 (新規分))

(表 47 文部科学省科学研究費補助金 (新規分) の採択内容)

(表 48 厚生労働省科学研究費補助金の採択内容 (平成 18 年度～平成 21 年度))

- ⑥ 研究倫理面においては、本学の教員及び研究者が行う「ヒトを直接対象とする研究」について、生命の尊重、個人の尊厳の保護等に関する倫理的配慮及び個人情報保護を図る観点から、研究者の申請に基づき「ヒトに関する研究倫理委員会」(学長、3 学科長、各学科教授各 1 名、個人情報保護委員会委員 1 名計 8 名で構成)において、調査審議を行い、その研究の可否について判定することとしている。
- ⑦ なお、平成 20 年度から、「ヒトに関する研究倫理委員会」の調査審議に当たっては、外部の意見等を反映することにより透明性を図り、もって社会に対する説明責任を果たす観点から、学内委員 8 名に加え、新たに有識者若干名を委員とすることとした(弁護士 1 名及び他大学教授 1 名計 2 名に委嘱)ことは評価することができる。
- ⑧ また、平成 20 年度においては、「東京医療保健大学研究倫理基準」及び「東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理基準」を定めたことに伴い、本学の学術研究の信頼性と公正性を確保するため研究を遂行する上で求められる研究者に係る倫理基準、ヒトに関する研究を遂行する上で求められる研究者の行動・態度及び研究計画の審査に関する研究倫理基準の周知徹底を図っている。

表 46 文部科学省科学研究費補助金の申請及び採択状況 (新規分)

学 科	平成 18 年度			平成 19 年度		
	申請 件数 (A)	採択 件数 (B)	採択率 B/A (%)	申請 件数 (A)	採択 件数 (B)	採択率 B/A (%)
看 護	7	1	14.3	10	3	30.0
医 療 栄 養	1	0	0	8	0	0
医 療 情 報	3	1	33.3	3	0	0
計	11	2	18.2	21	3	14.3

学 科	平成 20 年度			平成 21 年度		
	申請 件数 (A)	採択 件数 (B)	採択率 B/A (%)	申請 件数 (A)	採択 件数 (B)	採択率 B/A (%)
看 護	5	1	20.0	4	2	50.0
医 療 栄 養	4	2	50.0	5	0	0
医 療 情 報	1	0	0	2	1	50.0
計	10	3	30.0	11	3	27.3

表 47 文部科学省科学研究費補助金（新規分）の採択内容

平成 18 年度

研究種目	学 科	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額（千円）	
					直接 経費	間接 経費
若手 B	看 護	講 師	末永 由理	外来看護師の技とその形成要因の探索	500	—
若手 B	医療情報	講 師	山下 和彦	高齢者の下肢筋力評価のための臀部・大腿部筋力計測器の開発	900	—
2 件 合 計					1,400	—

平成 19 年度

研究種目	学 科	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額（千円）	
					直接 経費	間接 経費
基盤 C	看 護	講 師	島田 智織	母性看護学領域における e-learning システム内での協調学習に関する研究	1,700	510
若手 B	看 護	講 師	富岡 晶子	慢性疾患の子どもをもつ家族の支援における評価指標の開発	600	—
若手 B	看 護	講 師	山田 緑	地域を基盤とした心臓リハビリテーションシステムにおける継続的支援の実施と評価	500	—
3 件 合 計					2,800	510

平成 20 年度

研究種目	学 科	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額（千円）	
					直接 経費	間接 経費
若手 B	看 護	講 師	渡會 睦子	『生きるための心の教育（性教育）』を用いた若年層の性問題予防地域システムの開発	1,000	300
基盤 C	医療栄養	准教授	三舟 隆之	『日本霊異記』における地域関係説話の形成と伝承	600	180
若手 B	医療栄養	助 手	清水 雅富	酵母テスター株を用いた食品、天然物由来の抗老化物質の探索	1,600	480
3 件 合 計					3,200	960

平成 21 年度

研究種目	学 科	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額 (千円)	
					直接 経費	間接 経費
基盤 C	看 護	准教授	北 素子	要介護高齢者家族への支援における「家族生活安定度尺度」適用可能性の検証	700	210
若手 A	看 護	講 師	篁 宗一	精神科看護師を介在した児童・思春期のメンタルヘルス教育の開発に関する研究	2,700	810
若手 B	医療情報	准教授	山下 和彦	虚弱高齢者の定量的身体機能計測システムの開発と転倒リスク評価手法の構築	1,400	420
3 件 合 計					4,800	1,440

表 48 厚生労働省科学研究費補助金の採択内容 (平成 18 年度～平成 21 年度)

平成 18 年度

研究種目	学 科	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額 (千円)
医療安全・ 医療技術評価 総合研究事業		学長	小林 寛伊	安全性の高い療養環境及び作業環境の確立に関する研究	7,000
医療安全・ 医療技術評価 総合研究事業	看護学科	教授	坂本 すが	インシデント報告を活用した事故防止策構築過程の開発と報告者・リスクマネージャー支援に関する研究	4,000
長寿科学総合 研究事業	医療情報	准教授	山下 和彦	虚弱高齢者の歩行維持の機能的評価システムの開発に関する研究	3,370
3 件 合 計					14,370

平成 19 年度

研究種目	学 科	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額 (千円)
地域医療基盤 開発推進研究 事業	看護学科	教授	坂本 すが	医療者と患者を結ぶ情報伝達 手段としての媒介物（人工物） の機能とその安全性に関する 研究	8,100
1 件 合 計					8,100

平成 21 年度

研究種目	学 科	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額 (千円)
地域医療基盤 開発推進研究 事業		学長	小林 寛伊	医療現場における安全性（感染 制御策）の質向上をはかるため の総合的研究	6,500
健康安全・ 危機管理対策 総合研究事業	医療情報	教授	大久保 憲	クリーニング所における洗濯 物の消毒方法に関する研究	4,000
2 件 合 計					10,500

「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 研究活動の振興と研究環境の整備に努めるとともに、競争的な外部資金の確保を図るため、科学研究費補助金の申請件数及び採択件数の増を目指すとともに、研究助成財団などへの研究助成申請も今後、積極的に行う必要がある。
- ② また、科学研究費補助金など政策的な補助金の獲得を目指すため、そのシーズとなるプロジェクト研究に係る支援を積極的に行う必要がある。